

ビジネスもフットボールも限られた時間の中で結果を残す

藤本拓弥

RB #26

パナソニック株式会社
ハウジングシステム事業部



パナソニックインパルス4年目のRB藤本拓弥は、日本代表の1員として3月1日に米国プロフットボール予備軍「TSL選抜」と戦い、第4QにTDを挙げる活躍を演じた。

普段はハウジングシステム事業部で宅配ボックスの営業企画担当としてビジネスでも奮闘している。藤本にとってフットボールとビジネスは、どちらも欠くことができない相関関係になっているという。

学生時代のインパルスのイメージは「ただただ強いチーム。すごいチーム」というもので、自分がインパルスでプレーすることは想像していませんでした。

就職活動中にインパルスに挑戦するチャンスを得た時には、「自分の実力では通用しないだろう」

という思いもあったのですが、チャレンジしなければ可能性はゼロになってしまおうと思い、自分の好プレーを集めたビデオを送りました。練習参加の機会を頂いた時は、とにかく「生懸命走りました(笑)。

パナソニックという大企業で働けることも魅力でした。元々、営業で様々な人とお話をする仕事に就きたいと思っていたので、今の仕事にもやりがいを感じています。実際にインパルスの一員になっ

て恵まれていると感じるのは、フットボールとビジネスを高いレベルで両立できる環境が整えられていることです。たとえば、練習は基本的に平日就業後の2回と土曜日の週3回で、日曜日はオフになっています。将来、家庭を持った時に家族の時間に充てることができます。実は日本代表の練習で土日

の練習を初めて経験したのですが、想像以上にしんどかったです(笑)。

引退した後にビジネスパーソンとして活躍できるチャンスがあることも魅力です。ライオンユニシヨンス社では、道浦正治社長をはじめ、インパルスのOBが会社の幹部に就いています。また、仕事とフットボールを両立している先輩方がお手本として身近にいるのも心強いです。

インパルスでフットボールとビジネスの両立に挑戦していく中で学んだのは、「限られた時間で結果を残す」ということです。

学生時代は「時間は無限にある」と思っていました。しかし、社会人でプレーするためには限られた練習機会の中で成長しなければなりません。1回1回の機会を大切にすることが大切になりました。

ビジネスにおいても平日の練習時には定時で上がりますので、限られた時間の中で自分の役割を終わらせるという意識を常に持っています。

何よりも励みになるのは、部署の仲間が応援してくれていることです。応援してくれる方々のためにも、フットボールはもちろん、仕事も頑張ろうといういいモチベーションになっています。

現在は新型コロナウイルスの影響で在宅勤務になっていますが、自分で1日の時間の使い方の計画を立て、仕事とトレーニングに取り組んでいます。

今は通常とは違う状況ですが、今できることを積み重ねて準備をすることに変わりはありません。活動が再開された時に全力でプレーできるように、日々の準備を続けていきます。



Takuya Fujimoto

ふじもと・たくや。1994年生まれ。兵庫県立三木高校でフットボールを始める。龍谷大ではRB/RETとして活躍。2年時の2014年には関西学生リーグで1位のキックオフリターンを記録。2017年にパナソニック株式会社ライオンソリューションズ社に入社しインパルスに入部。2020年日本代表。



パナソニック インパルス 検索
panasonic.co.jp/ls/go-go-impulse



Facebook
www.facebook.com/Panasonic.Impulse

Twitter
@gogo_impulse